

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600061		
法人名	株式会社 日総		
事業所名	ふれあいの里 グループホームいすの木		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9 (電話) 0144-37-1330		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年3月5日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】(22年 2月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 6月 22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 18人、 非常勤 2人、 常勤換算 3.75人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(日額)	光熱水費:700 円	
敷金	有(円)	無	暖房費:300 円(11-3月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(3月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団養生館 苫小牧日翔病院・青葉病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「いすの木」は苫小牧駅から車で10分程の場所にあり、近くには市立病院や展望台、緑が丘公園や住吉公園など大小様々な公園にも恵まれた環境に位置している。建物は台所や居間など広々とした造りで、中庭を中心に居室を配置するなど利用者のプライバシーにも配慮されている。管理者や職員は利用者の残存能力を活かしながら、介護度が高くなっても役割を持って過ごせるように本人の思いや意向に沿って、個々のペースで生活できるようなケアを行っている。入浴などは利用者に合わせて負担にならないような方法を検討するなど、利用者重視のケアを行っている。職員間のコミュニケーションも良く、職員と利用者の明るい笑い声がホーム内に響き渡っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域交流では看護学校の実習生の受け入れを行い、運営推進会議は4ヶ月毎開催されている。職員の交代は季刊紙や家族会で報告が行われている。地域密着型サービスを踏まえた理念の作成、評価の意義の理解と活用、同業者との交流は今後も取り組みを継続する意向である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 新人職員には自己評価の意義や目的を説明し、1冊の自己評価表を各ユニット毎に準備して職員に記入してもらったり、管理者が聞き取りをしてまとめ上げている。自己評価を行う事で、管理者は改めて前回の取り組み項目を意識したり、職員は日々のケアの反省や確認になったと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 今年度は町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが参加して4ヶ月毎に開催している。現況報告の他、管理栄養士による高齢者の栄養管理や歯科医師による高齢者の口腔ケア、地域包括支援センター職員による成年後見人制度についての説明など充実した内容で開催されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 重要事項説明書に苦情相談窓口機関を明示しており、利用開始時に家族に説明している。家族が訪問した時は、気付いた事や要望などが無いかな尋ねるようにしている。家族からの意見や苦情は苦情記録書に記載して全職員で話し合いを行い、家族に口頭で報告している。季刊紙のホーム便りを発行して、行事や利用者の日々の様子、職員の交代を報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、利用者は町内会のお祭りの子供御輿を見たり、ボランティアの協力を得て樽前神社や港祭りに出かけて楽しんでいる。地域のボランティアが訪問して、オカリナや琴の演奏、踊りなどが行われている。今年度は、事業所の敬老会にボランティアの人を招待したり、看護学校の実習生の受け入れによる交流が行われた。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で開設当初に考えた「安全に安心して暮らせる家庭的な環境を提供します」「意思・人格を尊重し共に生きる事をお手伝いします」「笑顔のある温かい生活を提供します」という、3項目の事業所独自の基本理念を掲げている。		現在行われている地域との関わりを踏まえて、地域密着型サービスの文言を入れた理念を作成する意向なので、その取り組みを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所の壁に掲示し、机上にも縮小したものを配置して事務仕事をする時などに意識できるようにしている。毎月のカンファレンス時に理念を取り上げ、利用者の人格を尊重し、家庭と同じようにその人のペースでゆったりと生活できるように心掛けて、日々ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者は町内会のお祭りの子供御輿を見たり、ボランティアの協力を得て樽前神社や港祭りに出かけて楽しんでいる。地域のボランティアが訪問して、オカリナや琴の演奏、踊りなどが行われている。今年度は、事業所の敬老会にボランティアの人を招待したり、看護学校の実習生の受け入れによる交流が行われた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新人職員には自己評価の意義や目的を説明し、1冊の自己評価表を各ユニット毎に準備して職員に記入してもらったり、管理者が聞き取りをしてまとめ上げている。自己評価を行う事で、管理者は改めて前回の取り組み項目を意識したり、職員は日々のケアの反省や確認になったと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度は町内役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが参加して4ヶ月毎に開催している。現況報告の他、管理栄養士による高齢者の栄養管理や歯科医師による高齢者の口腔ケア、地域包括支援センター職員による成年後見人制度の説明など充実した内容で開催されている。</p>		<p>次年度は運営推進会議の開催頻度を増やす意向なので、その取り組みが行われ、会議が日々のケアに更に役立てられるように期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は月2～3回市役所を訪問して、介護認定の更新や生活保護などの事務手続き、おむつサービスなどについて相談している。避難訓練や救急救命講習の依頼などに消防本部を訪問する事もある。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各ユニット毎に「いすの木通信」「ひだまり通信」のホーム便りを季刊紙として発行して、行事や利用者の日々の様子を写真やコメントで報告している。職員の交代もホーム便りや家族会の会議で報告している。金銭管理は、現在は立て替え方式に変更し、毎月利用料の請求書と一緒に本部が一括して家族に郵送している。</p>		<p>それぞれの利用者の健康状態や日頃の暮らしぶりについて、毎月家族に報告する方法を職員間で話し合い、実現できるように期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談窓口機関を明示しており、利用開始時に家族に説明している。玄関には意見箱も設置している。家族が訪問した時は、気付いた事や要望などが無いかな尋ねるようにしている。意見箱への投書や家族から訪問時に言われた事は苦情記録書に記載して全職員で話し合いを行い、家族に口頭で報告している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的な法人間の異動はないが、事業所間の職員が介護力のバランスや職員本人の希望による異動が行われる事がある。離職する職員は利用者に行われる事に挨拶をして辞めるようにしているが、新旧職員の交代に1ヶ月程時間をかけて引き継ぎを行っているため、離職による利用者へのダメージはないと感じている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北海道認知症高齢者グループホーム協議会や保健所の研修会や勉強会に参加している。終了後は報告書を作成してミーティングで報告している。資料は1冊のファイルにまとめて夜勤時に見られるように整理しており、全職員で研修内容を共有して日々のケアに役立てられるように工夫している。次年度からは各職員に応じた教育計画を作成していく予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のグループホーム協議会の管理者会議や同法人の事業所が集まる年1回のブロック会議において交流する機会はあるが、一般職員は研修会に参加した時の交流にとどまっている。		今後は他のグループホームとの交流を行う意向なので、相互訪問や交換実習を行う事で更なる職員のレベルアップを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に可能な限り家族と本人に訪してもらい、事業所の中を見たり話をじっくり過ごしてもらい、本人の意思を確認してサービスを開始するようにしている。利用開始後は他の利用者に紹介をして、一緒にお茶を飲んだり意識的に声かけを多くして少しずつ馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に日々の料理や春の七草、おせち料理などを教えてもらったり、畳の拭き方など掃除の仕方学んでいる。育児経験を活かし、子育ての相談にのってもらえる事もある。「有難う」や夜勤の時に「早く休みなさい」など言葉をかけてもらう事で職員は嬉しく思い、精神的にも支えられていると感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は、日々の会話や表情、仕草などから思いや意向を把握して、利用者一人ひとりの希望に沿って支援できるように配慮している。利用者の思いや意向はアセスメントや連絡ノートに記録して、各職員が記録を毎日確認して情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	初期の介護計画は家族や関係者から情報を収集し、また病院の情報も参考に計画作成者は利用者、家族の意向を入れて暫定案を作る。10日以内に申し送りなどで利用者の状態を話し合い介護計画を作成している。家族の来訪時や郵送で計画書の内容を確認し同意を得ている。利用者には会話の中で内容を伝えている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	利用者の状態を毎月モニタリングし、それに基づき3ヶ月毎に評価を行い介護計画を見直している。状態が安定している場合は一部修正も加えて更新計画を作り、その都度確認印をもらっている。体調の変化や入退院後に介護内容が変わる場合は、利用者、家族とも話し合い新たに計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	家族の受診同行が難しい時は、事情に応じて職員が受診送迎を行い柔軟に対応している。買い物ついでに自宅に立ち寄る事もあり、個別の事情に応じている。家族がいつでも泊まれるように寝具なども準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用開始時に協力医療機関との医療連携体制を説明し、利用者、家族の希望に沿って入居前のかかりつけ医の受診を継続している。受診時に健康の情報を家族に渡し、結果なども家族を介して内容を共有している。必要な時は電話で相談したり病院からも報告があり、それぞれの主治医と連携する中で支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用の契約時に重度化に伴う事業所の方針を説明し同意を得ている。「終末ケアに関する同意書」も作成しているが主治医が終末期の段階にあると判断した段階で同意を交わす事になっている。病状に変化が生じた場合は主治医に相談し、利用者、家族とも話し合い、その内容を介護記録に記載し全員で方針を共有している。</p>		<p>関係者で話し合った方針を記録する書式を検討中との事なので、それに期待したい。利用開始時に終末ケアについても説明し、また段階に応じて確認するような取り組みに期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉使いは利用者との信頼関係の中で交わされている事もあるので、見極めながら慣れ合いにならないよう注意している。排泄の失敗などは他者に分からないように対応してプライバシーに配慮している。個人情報などの書類は事務所に保管し取り扱いに注意を払っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の大まかな決まりはあるが、遅く起きて朝食を摂る利用者にも合わせて準備をしている。介護度の重い利用者は居間に集まってミニゲームやちぎり絵を楽しみ、元気な利用者は散歩に出たり食事の準備を手伝うなど、それぞれの過ごし方に沿って支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>法人の管理栄養士が献立を作っているが、誕生日や行事には職員が利用者の好みの献立を作り食事を提供している。味見、いもの皮むき、大根のキザミなどの調理に参加し、食後は下膳、茶碗洗い、テーブル拭きなど職員と一緒にしている。会話を楽しみながら職員も食事を共にしている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>日曜日や行事などの特別な日を除き、午後から入浴ができる態勢になっている。週に2回以上は入浴しており、体調が悪い時は清拭を行っている。介護度が重い利用者には苦痛を与えないように、浴槽内で身体を洗った後シャワーで洗い流すなどの工夫で、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の手伝いの他、ゴミ捨て、モップがけ、洗濯物たたみ、観葉植物の水やり、カーテンの開け閉めなどの役割があり、職員は生活の中で出来るような事を引き出している。利用者はカラオケやランプなどで遊び、おやつ、中庭でのバーベキュー、外食など、食べる事を楽しみにしている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>病院の裏庭や丘の上にある公園まで車で行き散歩を楽しんでいる。手作りのホビー店やデパートなどに出かける事もある。中庭で草取りをしてお茶を楽しむなど外気に触れる機会を作り、週に2~3回以上は戸外に出られるように支援している。冬季の外出は通院程度になるが、イルミネーションを見にドライブを楽しむ事もある。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は2ユニット共通の外玄関を開けており、ユニット玄関入口にオルゴール付きのセンサーを取り付け、出入りに注意している。外に出たい時は一緒に出て花を見て回るなど、利用者の思いに沿って対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署指導の下で、年に2回は日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議に消防署の職員も参加し、避難時に住民の協力の仕方について話し合っており、それに沿って町内会の方も訓練に参加している。消防署の指導で救急救命の訓練に全職員が3年に1回は受けられるようにしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全員の食事量、水分量をアセスメントシートに記録して把握している。水分量は1,000ccを目標に、飲みたがらない利用者にはゼリーやアイスクリーム、好みの飲み物で補っている。カロリーなどの栄養バランスは、法人の管理栄養士が献立を作り管理している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>中庭を中心に回廊型の共用空間は広く、食堂と居間は離れており、利用者のプライバシーを配慮した造りになっている。ケアをするのに死角になる面も多いが、職員の見守りの中で利用者はそれぞれの場所でゆったりと過ごしている。縫いぐるみや季節の装飾品などが飾られており、観葉植物などの緑を多く取り入れ居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁と壁の間にタンスが配置されて空間が広くなり、安全に移動ができるように工夫されている。テレビ、大きな鏡台、安全で座り心地よさそうな低い籐椅子など、馴染みの物が持ち込まれている。物の配置を職員と一緒に考え掃除もしている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。